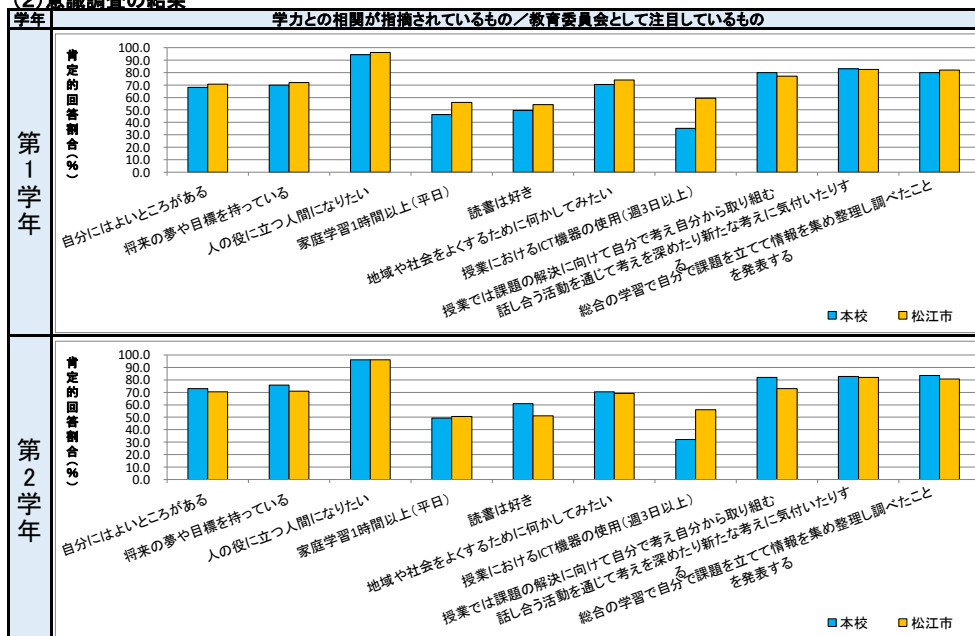


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第1学年	国語	<p>成果 ○「書くこと」における「日常生活から題材を決め、集めた材料を整理している。」という観点において、推定全国値を約5ポイント上回っていた。また「書くこと」については他の活動に比べ取得ポイントが高い傾向がある。各単元においてまとまった文章を書くことに取り組んできた成果と考えられる。</p> <p>課題 ●「文学的な文章を読む」における「登場人物の心情について描写を基に捉えている。」が推定全国値を正答率が約18ポイント下回るなど「読むこと」に課題がある。</p>	<p>・本文中の行動・会話・情景などの描写に線を引かせ、「どの表現からその心情を捉えたのか」を必ず書かせることで、理解が不十分な箇所を可視化する。</p> <p>・ペア学習を通して、「どの描写からそう考えたのか」を互いに説明し合う時間を取り入れ、根拠を基にした読みの理解を深めている。</p>
	数学	<p>成果 ○「比例・反比例」の分野が推定全国値を上回っていた。座標の読み取りや関数関係を式で表すなどといった基本的な知識・技能は十分身に付いている。</p> <p>課題 ●代入について理解し、式の値を正しく求めることに課題がある。</p> <p>●分数をふくむ一次方程式を解くことに課題がある。</p>	<p>・途中式を書くことを徹底し、どこを十分に理解できていないかを可視化する。</p> <p>・小テストや演習によって基本的な知識・技能を活用する力を身に付けるようにする。</p> <p>・ペア学習を通してお互いに説明する時間を取り入れ、理解を深めていく。</p>
	英語	<p>成果 ○文の語順を理解している生徒が多い。</p> <p>○リスニングの技能においては、全体としては聞き取った内容を理解することができている。</p> <p>課題 ●リスニングの技能においては、聞いた内容について適切に応答するなど、複数の技能を必要とする問題については課題がある。</p> <p>●英文の読み取り問題で、資料からの読み取りなど発展的な問題について課題がある。</p>	<p>・複数の技能を活用する活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・基礎・基本的な力を付ける活動を取り入れる。</p> <p>・自分のことを紹介する表現活動を多く取り入れる。</p>
第2学年	国語	<p>成果 ○語句の敬語についての問題は推定全国値を上回っていた。</p> <p>○文章の読み取りについて、文章の表現の効果について考えることにおいて推定全国値を上回っていた。</p> <p>課題 ●「表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している」の項目において22ポイント推定全国値を下回っているなど、文章を書くことに課題がある。</p>	<p>・「書くこと」について、単元ごとにまとまった自分の考えを文章で書く経験を積ませる。</p> <p>・条件作文など、条件に沿って文章を書き、ペアやグループなどでお互いの書いた文章を発表、推敲し合うことで文章を書くための書き方の型を身に付けさせていく。</p> <p>・お手本となる例文を示し、書く際の参考とさせると同時に書くことへの抵抗感を減らす。</p>
	数学	<p>成果 ○「図形の性質」の分野が推定全国値を上回っていた。テストの時期に学習していたこともあるが、小テストの取組や反復して学習することで成果が表れたと考える。</p> <p>課題 ●「式の計算」をきちんと理解し、正確に取り組むことに課題がある。</p> <p>●単元によって成果のばらつきに課題がある。</p>	<p>・「式と計算」で、数学に必要な、早く・簡単に・正確に計算していく練習を家庭学習も取り組む。</p> <p>・単元ごとでも振り返りや復習を含ながら単元をつらぬく課題に取り組んでいく。</p> <p>・グループ学習に対しての取り組み方を見直していく。教え合う時間と自分の考えを伝え、説明する時間をうまく活用していく。</p> <p>・正解思考にとらわれず自由な発見や取組を認め、数学のおもしろさを伝え、意欲をあげていく。</p>
	英語	<p>成果 ○リスニングの技能においては、全体としては聞き取った内容を理解することができている。</p> <p>○英文の読み取りにおいては、概ね内容を理解することはできている。</p> <p>課題 ●リスニングの技能においては、聞いた内容について適切に応答するなど、複数の技能を必要とする問題については課題がある。</p> <p>●英文の発展的な問題の読み取りにおいては、適切に回答する力が不十分である。また、概要を読み取る力が不十分である。</p> <p>●場面に応じて表現する力に課題がある。</p>	<p>・複数の技能を活用する活動を積極的に取り入れる。</p>

(2)意識調査の結果



<傾向と今後の対策、分析>

成果○: 強み/伸ばしたい点 について
 課題●: 弱み/改善を要する点 について

【第1学年】

- 人の役に立つ人間になりたいと回答した生徒が多く、社会的な貢献志向が高いと感じる。そのため、学級活動や生徒会活動、地域連携を通してさらに育成していきたい。
- 家庭学習平日1時間以上と回答した生徒の割合が低い。各教科だけでなく、家庭とも連携し、さらなる家庭学習習慣の形成に努めたい。

【第2学年】

- 人の役に立つ人間になりたいと回答した生徒が多く、自分だけでなく、周りのことも考えて生活していると感じた。
- 話し合い活動が好きな生徒の割合が高い。
- 読書好きの生徒の割合が低いため、タブレットだけでなく図書館の活用図書資料の活用をしていきたい。

【R7学力調査受検者数】

第1学年	136	名
第2学年	138	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示